

1. 教育の責任

日本語教育を専門としている。本学における担当科目として、留学生に対する日本語の授業では、討論・発表に重点を置いた日本語の運用能力の向上をめざしている。日本語教師をめざす学生への日本語教育に関する授業では、日本語の教授に必要な日本語学の知識、それを論理的に言語化できる能力、および教育実習に必要な技術・経験を教授しているが、何より、日本語ネイティブとして何気なく使用してきた日本語を一つの外国語として学習者の立場から見られるようになること、多角的な視点を持ち多様な社会で生きていく力を身につけることを教育目標と考えて、学生達に考えさせる授業を行っている。また、大学院生に対しては、日本語学・日本語教育学に関する研究の基本、論文の書き方、発表の仕方を身につけられるよう授業を行っている。

さらに、通信機養育部(日本語教師養成コース)の授業では、「世界の日本語教育」の他、「日本語教育実習」を担当し、本学における実学の普及に協力しているほか、2024年度からの日本語教師の国家資格化にともなうカリキュラムやシラバスの変更・改善に取り組んでいる。

具体的な授業科目は以下の通り。

【2024年度】

「日本語教育概論Ⅰ・Ⅱ」「日本語音声学・音韻論」「国際日本ゼミナールⅠ・Ⅱ」(日本語教育関連専門科目)

「日本語教育特殊研究Ⅲ・Ⅳ」「比較文化特別研究Ⅰ・Ⅱ(論文指導)」(大学院科目)

「世界の日本語教育」「日本語教育実習」(通信教育科目)

2. 教育の理念

本学の建学の精神「STUDY FOR LIFE（生涯にわたる、人生のための学び）」に基づき、豊かな教養と専門的・学術的な知識、旺盛な自己開発精神、優れた国際感覚及び問題解決能力を備えた人材を育成し、地域の教育・研究および生涯学習の中心として、地域社会・国際社会に貢献することを目的とする、という教育目的をふまえ、国際感覚を身につけ、地域社会、そして国際社会に貢献する人材を育成することを目標としている。

前職の公立中学校、私立の中高一貫校の管理職にあっても、常に「Glocalization」を教育の主軸として唱え、学校運営やコース設定を行ってきた。すなわち「地域を学んで世界に発信し、世界を知って地域に還元する」を自身の教育ポリシーとしてきた。現在、「日本を知り、世界を知る。世界を知り、日本を振り返る。」という大手前大学の国際日本学部を身置き、学部長職を拝命して、まさに「我が意を得たり」の感で教育を行っている。

これから学び、社会に出る人たちに身につけてほしいものは以下の3つである。

- ①多文化・多様な社会に接してそれを受け入れる柔軟さと多角的な視野。
- ②既得権益にとらわれず現状を打破する勇氣。
- ③既存のものや意見に反対するときには、必ず代替案を提示できる創造力。

3. 教育の方法

【教育の目的と目標】

- ・日本語教育を志す学生に必要な専門知識や教師としての心得を身につけてもらうこと。さらに、学生の人間的成長を促す。
- ・留学生においては、キャリアに必要な日本語の運用力を向上させ、日本での留学経験を有意義に活かせる道を見つけること。

【授業のスタイル】

- ・日本語教育に必要な日本語学一般、及び第二言語習得に関わる学習ストラテジーや心理学など、知識注入が必要な部分は基本的に講義形式で、座学中心になるが、基本的には学生達に問いを発して考えさせ、発言させる双方向的な学習スタイルを取っている。
- ・毎回、学生の理解度を測るために課題(振り返りワークシートやレポート)を提出させる。
- ・単元ごと、また学期末には確認テストと発表をさせる。
- ・提出された課題は、必ずチェック(留学生のレポートに対しては日本語の添削を含む)し、毎回、個人にフィードバックする。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際日本学部 名前：恩塚 千代 作成日：2025年1月5日

・授業後には el-Campus のお知らせ機能で、欠席者への対応を含めた「リマインダー」を発信している。すなわち、その日の授業の内容と課題、提出日等の通知である。

【教科書の選定】

最近では教科書、専門書も高価なものが多いので、ひとつの単位(科目)受講で、学生に複数の教科書を買わせることがないように、学期で教える内容に合致しつつも教授内容を網羅しているような本を選んでいる。

【シラバスについて】

大学の WEB 上の科目シラバスとは別に、学生達への注意事項、その授業の受講ルール、単位取得の条件などを加筆したシラバスを配布している。

【課外活動】

日本語教育をめざす学生を対象に、同じメジャーの先生方と課外サークルを運営している。このサークルでは、留学生との交流を兼ねた日本語を教える体験の場を提供し、日本語教育能力検定試験対策講座やアニメ映画のシナリオ朗読会等の学びの場を構築している。また、そのサークルの有志を対象に、6 限目には「日本語教育能力検定試験」(日本語教員試験)対策講座を実施している。

4. 教育の成果

本学における成果としては、まだ卒業生を出していないので、そつぎょう研究や就職などの成果を明示できていない。しかし、過去の複数の大学(前職)での教授経験では、常に学生の授業評価が4.3～4.8(5点満点)を保っていたので、学生の授業満足度は高いと自負している。また、卒業させた学生の中には日本語学校の教師や大学教員となり活躍している人たちもかなり存在する。昨年度、今年度は、「日本語音声学・音韻論」を受講してとてもおもしろかった、日本語に興味を持ったという学生が恩塚ゼミを希望してきた。かなり難しい内容を取り上げているにもかかわらず、日本語に興味を持ってもらえたという実感はある。

成果の基準としては、上記の学生評価や授業アンケートなどを指標としている。

5. 改善への努力と今後の目標

* 昨年までは、課題のチェック・採点・日本語の添削に時間を取られ、授業準備に少し時間をかけすぎていると感じていた。今後、ゼミや卒業研究、学部・大学院の論文等で学生指導の時間が増えていくことが予想されるので、今年度は学生へのフィードバックは継続したまま、課題の自己点検やピア・ラーニング、el-Campus 上での単元テストや自動採点なども取り入れた。(留学生の日本語添削を除く)

* 課外活動等は、日本語教育担当教員で分担していく。

* 今後とも、アクティブラーニングを取り入れながら、学生達が自律的に学習を進めていけるような授業をめざす。

【添付資料】

「日本語教育概論Ⅰ・Ⅱ」シラバス

「日本語音声学・音韻論」シラバス

「国際日本ゼミナールⅠ・Ⅱ」シラバス